

# 19-20 世紀転換期ウィーンにおけるコロマン・モーザーの空間デザイン —ヨーゼフ・ホフマンとの比較—

## 論文要旨

コロマン・モーザー(Koloman Moser/1868-1918/以下モーザー)は、伝統的デザインからモダンデザインに展開するデザイン史上重要な19-20世紀転換期ウィーンにおいて、多分野で活躍した芸術家である。画家として芸術活動を始めたが、当時は建築家が手掛けていた空間デザインの分野でも活躍した。当時は建築家が建築内部の空間デザインを行なうことが一般的だった中で、モーザーが創出した革新的に簡素な空間デザインに注目した。

本論文では、モーザーと同時期に共に活動した建築家ヨーゼフ・ホフマン(Josef Hoffmann/1870-1956/以下ホフマン)の空間デザインと比較する。彼らは同時期にいくつかの団体に協働していて、モーザーの空間デザインを分析する際に視野に入れることは必要である。

本論文で明らかにすることは、モーザーの簡素な空間デザインを、近代の無装飾な空間デザインの先駆と位置付けることである。そのため、簡素な空間デザインを客観的に判断するために独自の評価方法を提示する。その指標を用いて、モーザーの簡素な空間デザインがホフマンより先行していたことを示す。先行研究では、モーザーの平面芸術が装飾的で、ホフマンの方が簡素であるとしている。しかし、本論文ではその説を覆し、空間デザインではモーザーの方が簡素であることを示していく。研究対象期間は1898年から1908年までとし、当時の芸術雑誌に掲載されたモーザーとホフマンによる住宅、展示、店舗の空間デザインの実例を分析資料とした。

本論では、第一章で、自伝、書簡、文献資料をもとにモーザーとホフマンの生涯を概観し、主な作品を挙げた。彼らの主な共通の活動の場として、芸術団体ではウィーン分離派とクンストシャウ、ウィーン美術工芸学校、ウィーン工房の4つが挙げられる。芸術団体では両者は共に展示の空間デザインを行なった。ウィーン美術工芸学校では20年間共に教職に就き、後進を指導した。さらに1903年に、彼らはインテリアエレメントの製作会社であるウィーン工房を設立し、住宅、店舗の空間デザインを行なった。彼らの共通の活動期間は1895年からモーザーが没する1918年までで、最も活動したのは、ウィーン工房設立後の3年間であった。

第二章では、簡素な空間デザインを客観的に示す指標となる「簡素度」について説明した。

第三章では、空間デザインを分析するための資料をまとめて示した。両者主導による住宅と協働による住宅の空間デザイン、展示と店舗の空間デザインを挙げ、簡素度を確認した。本論文の主軸である住宅に関しては、各住宅に採用された文様と形状を観察した。

第四章では、前章で示した資料の中の簡素な空間デザインに注目し、比較分析を行なった。その際、ウィーン工房以前とウィーン工房時代の相違に注目した。モーザーの方がホフマンより、早い時期に簡素な空間デザインを創出していて、モーザーが先行していた。また、両者とも、簡素な空間デザインの実例はウィーン工房時代に増えている。そして、住宅、展示、店舗の簡素な高い空間デザインは、同時期に行なわれていた。また影響関係では、住宅と展示にお

いて、モーザーからホフマンへの影響があると考察された。両者の簡素な空間デザインは、1904年から1905年に最も多く創出されている。

第五章では、両者の住宅の空間デザインにおける文様と形状の比較分析を行なった。ウィーン工房以前とウィーン工房時代の相違に注目した。両者の住宅の空間デザインでは、主導より協働による住宅で文様と形状が多く採用されている。そして、文様と形状の数はウィーン工房時代の方が多かった。両者のウィーン工房以前とウィーン工房時代の文様と形状の変化を見ると、文様ではモーザーは曲線的に、ホフマンは直線的になる傾向があった。両者は、ウィーン工房時代に協働する機会が増えたことで、相互に影響を与え合っていた。文様と形状では、モーザーの方がウィーン工房時代の変化が大きく、ホフマンの影響を受けている。しかし、簡素な空間デザインに関しては、ホフマンがモーザーの影響で簡素な傾向に変化している。

第四章と第五章の分析をもとに、第六章では、モーザーの空間デザインの意義を考察した。第1に、モーザーの空間デザインの先駆性、革新性を示した。第2に、ホフマンによる空間デザインは本来、装飾的であった。しかし、モーザーの影響を受けて簡素な空間デザインを行なうようになったことが確認された。第3に、モーザーが1900年という早い時期に簡素な空間デザイン創出された背景を考察した。当時のデザイン全般が簡素な方向に向かう傾向であった中、特に、スコットランドの建築家マッキントッシュによる白い空間デザインと同時期にモーザーは簡素な空間デザインを創出していた。第4に、近代の無装飾な空間デザインに向かう19-20世紀転換期の空間デザインの展開には、「空間の簡素性」と「装飾の簡素性」をめぐる2つの傾向があると考察される。モーザーやマッキントッシュは画家としても活躍したが、彼らによる「空間の簡素性」のある空間デザインと、建築家ホフマンやヴァーグナーによる「装飾の簡素性」の空間デザインは別の傾向を示している。文様では、曲線的な文様を多く採用したモーザーより、直線的な文様を好んだホフマンの方が簡素である。しかし、空間デザイン全体では、モーザーが簡素であった。装飾が簡素であることが、簡素な空間デザインになるわけではないことが確認された。

結論では、各章で考察した結果をまとめ、分析結果を総括した。残された課題として、モーザーが他の建築家の空間デザインに及ぼした影響、そして、総合的な空間デザイナーであったモーザーの歴史的な位置付けを挙げた。そして、モーザーを通して空間デザインへの関わり方を、第六章で示した「空間の簡素性」と「装飾の簡素性」の問題も含めて、今後の課題としたい。



